

兵庫県における災害警戒・対応体制の実際

～阪神・淡路大震災を踏まえた防災体制の構築と運用～

2019年7月31日



兵庫県企画県民部防災企画局
復興支援課長 小野山 正



- 1 日本の災害対応の仕組み
- 2 阪神・淡路大震災の概要と教訓
- 3 兵庫県の災害対応体制の構築・運用
- 4 関係機関連携・地域防災力の向上

1 日本の災害対応の仕組み

災害対策基本法（1961年制定）

災害対応における、国・都道府県・市町村の関係

- ① 原則として、被災市町村が災害対応にあたる
- ② 市町村で対応が困難な場合は、都道府県が支援
- ③ 都道府県でも対応が困難な場合は、国(政府)が支援



発生時の状況（初動体制）

<災害対策本部>

- ・ 設置：午前7時 *発生から1時間14分後
- ・ 第1回会議：午前8時30分 *発生から2時間44分後
出席本部員5名（本部員21名中）
- ・ 職員の出勤不能（14時までに約2割）

<情報通信>

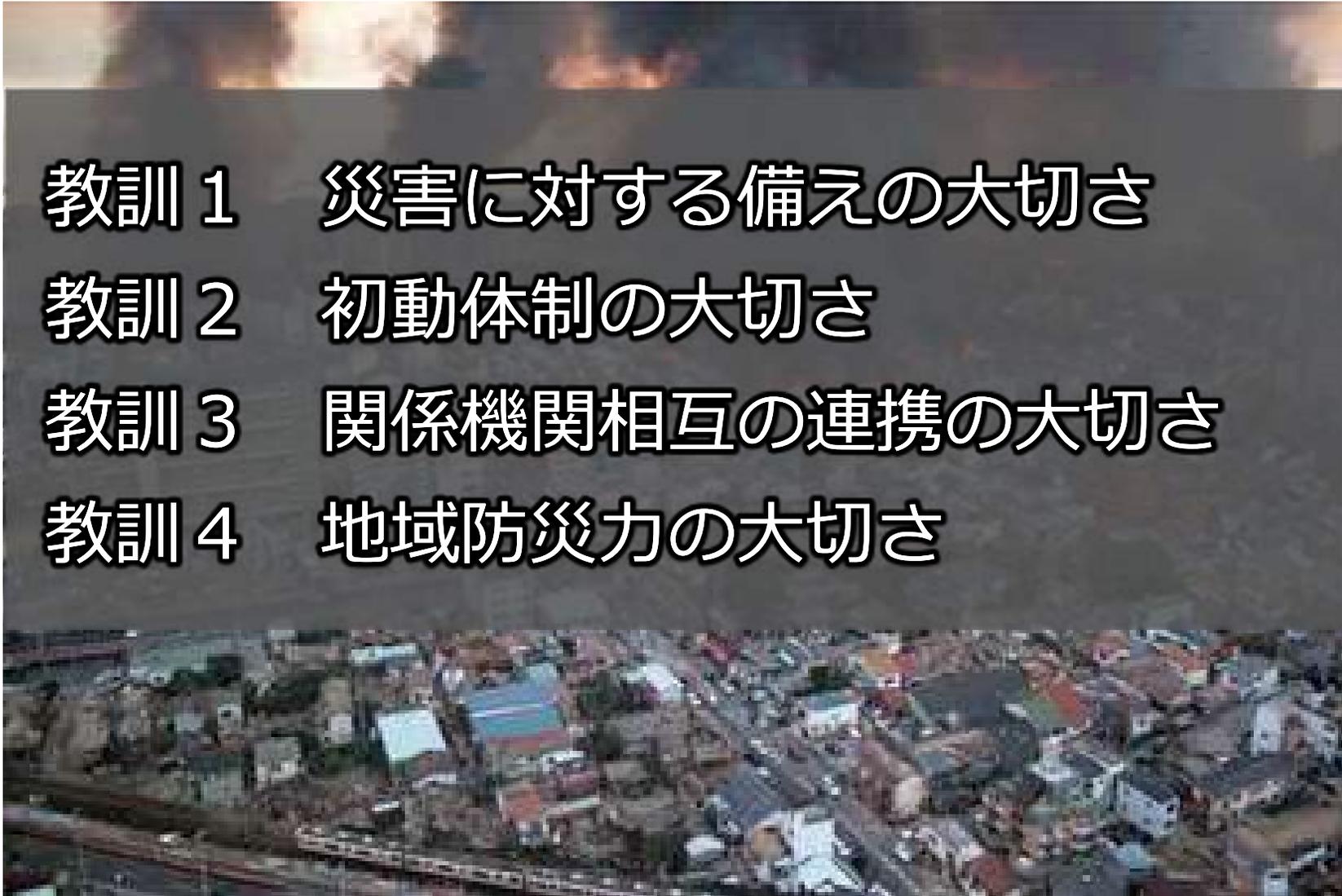
- ・ 一般加入電話（NTT）：著しい輻輳（50倍）
- ・ 停電・断水等の影響
（自家発電も冷却水なく停止）
- ・ 被害の把握困難、関係機関への連絡困難
→自衛隊への出動要請は午前10時

<緊急課題>

人命救助、避難所設営、飲料水確保、
食糧確保、防寒具確保、医療の確保、
トイレの確保、余震対策、二次被害の防止等



阪神・淡路大震災の教訓

- 
- 教訓 1 災害に対する備えの大切さ
 - 教訓 2 初動体制の大切さ
 - 教訓 3 関係機関相互の連携の大切さ
 - 教訓 4 地域防災力の大切さ

3 教訓を踏まえた兵庫県の災害対応体制の構築・運用

1. 平時における備えの充実

- ① **防災監**（副知事級）の設置 [1996～]
- ② **防災体制の強化**（防災企画局・災害対策局） [2005～]
- ③ **災害待機宿舎**の整備 [2000]
- ④ **災害対策センター**の整備 [2002] ----->
- ⑤ **広域防災拠点**の整備(6箇所) [1998～2008]

2. 被災自治体支援の仕組みの構築

- ① **ひょうご災害緊急支援隊** [2010～]
（県や市町等の過去の災害派遣者：約2,000名登録）
- ② **家屋被害認定士養成制度** [2005～]
（住宅被害の程度判定研修の実施・約2,000名修了）



兵庫県災害対策センター
（兵庫県庁北側・独立専用庁舎）

兵庫県防災部局の体制

阪神・淡路大震災時の体制

(1995.1.17現在)

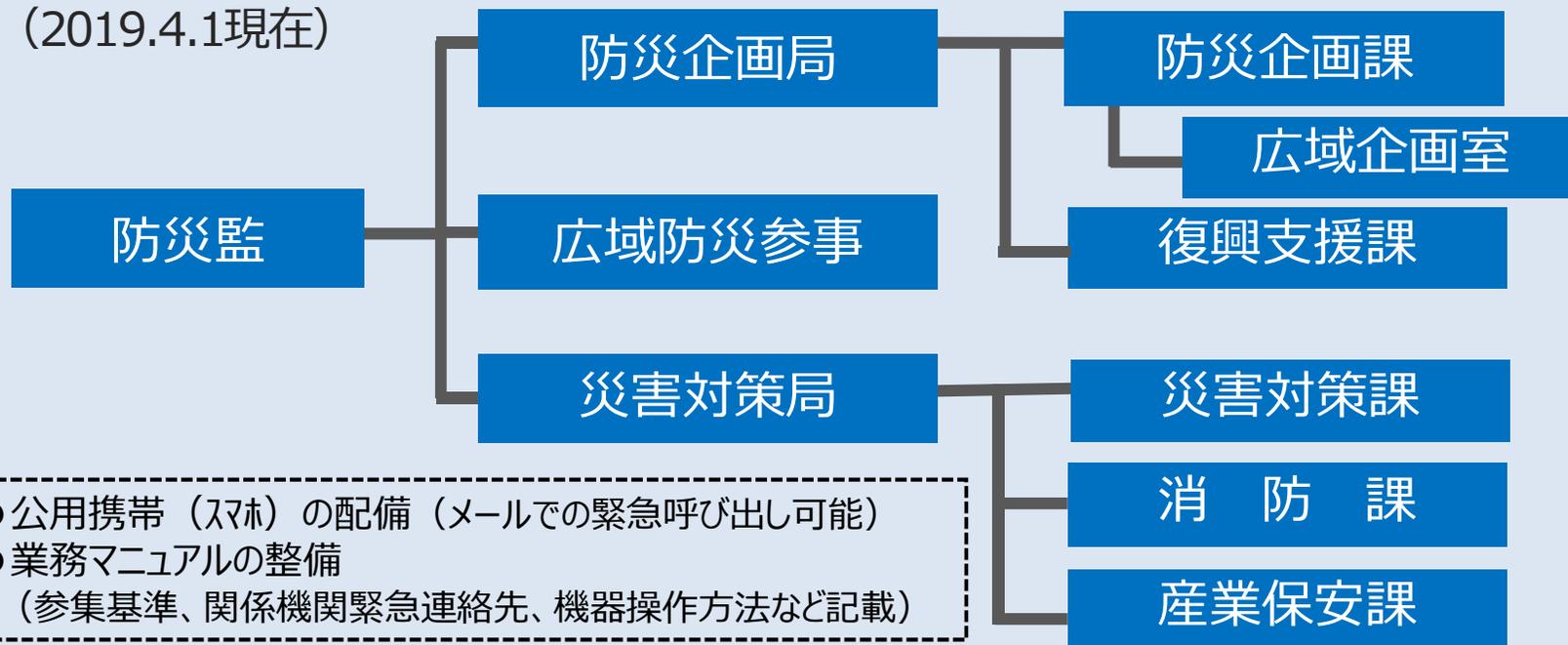
正規職員 20名

消防交通安全課

現在の県の体制

(2019.4.1現在)

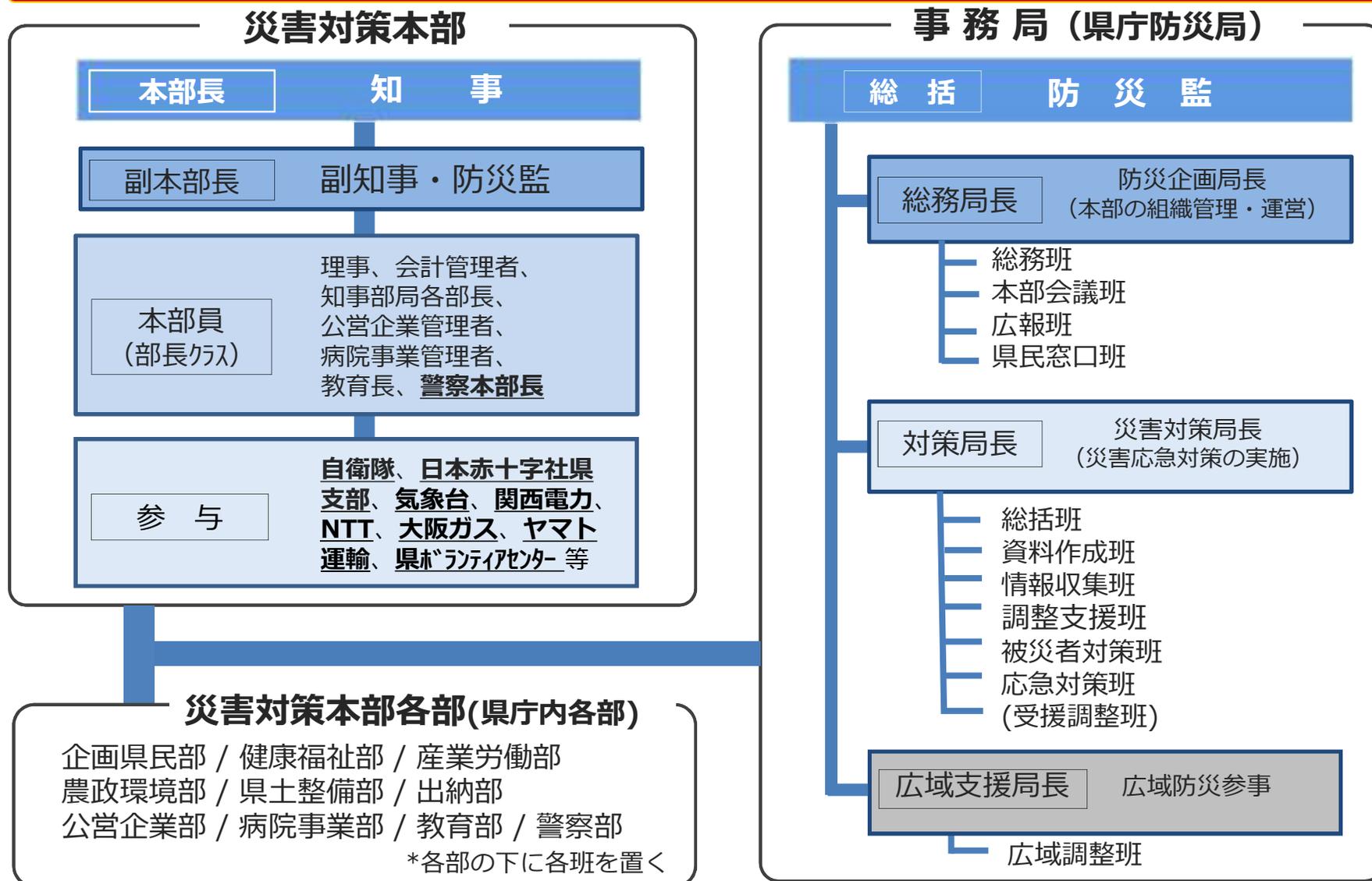
正規職員 約70名



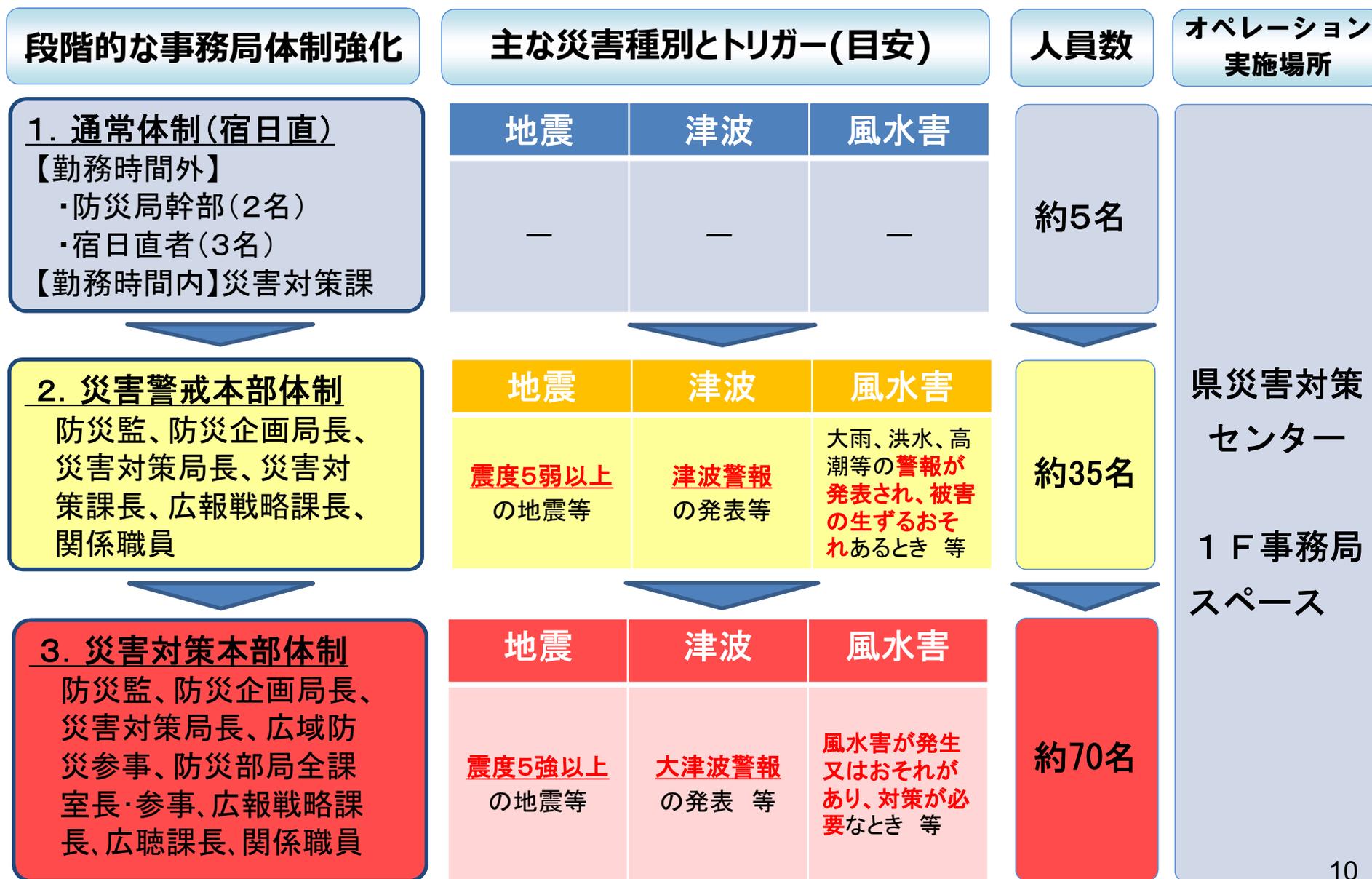
- 公用携帯（スマホ）の配備（メールでの緊急呼び出し可能）
- 業務マニュアルの整備
（参集基準、関係機関緊急連絡先、機器操作方法など記載）

兵庫県災害対策本部の体制 (兵庫県災害対策センターに設置)

災害対策本部は、震度5強以上、又は大津波警報発表で自動設置



防災体制の段階的移行【平時→警戒→災害時】



兵庫県内の広域防災拠点の整備・運用

広域防災拠点のネットワーク

(防災拠点の機能)

- ①食糧・物資等の備蓄
- ②災害対策要員の集結・宿泊
- ③救援物資の集積・配送



但馬広域防災拠点



西播磨広域防災拠点



淡路広域防災拠点



丹波広域防災拠点



兵庫県広域防災センター
(全県活動拠点・三木市)



阪神広域防災拠点



兵庫県災害対策センター
(全県指揮拠点・神戸市)



初動体制の強化（初動が最重要！）

- 24時間監視即応体制（宿日直として職員3名が常駐）
- 災害待機宿舎（神戸市内に4箇所・77戸）
- フェニックス防災情報システム（県・市町・警察・消防・自衛隊等結ぶ）

- 地震・気象・洪水・地理等の情報共有
- **被害情報報告・収集・共有、被害予測**
- **要員・物資の需給推計、タイムライン**
- **作成・管理**
- テレビ会議、ツイッター情報収集・整理

フェニックス防災システム



災害対策センター 災害対策本部会議 (毎年1回は訓練実施)



災害対策センター 事務局スペース (毎年数回、訓練実施)



- 事務局を総括、情報収集、資料作成、被災者支援など班編成。班毎にテーブル、PCの機器、マニュアル等配置
- 正面に大型スクリーン（最大24画面分割可）、電子黒板4台、ホワイトボード等配置

14



～ 1.17は忘れない、伝える、活かす、備える ～

Hyogo Prefectural Government

4 防災関係機関との連携

- 防災関係機関との防災訓練の実施 [自衛隊・警察・消防・ライフライン]
実践的な防災訓練の実施（兵庫県主催で毎年9月に大規模な実働訓練）
- 協定締結による連携・支援の仕組みの構築 [行政・企業]
人的派遣、食料等生活物資・資機材の供給、輸送、施設復旧など、
様々な分野で協定を締結

協定締結数：締結数は287、締結団体は延べ668団体（2018.8.1現在）

【主な内訳】

- 締結数287のうち、生活物資等の供給が125で約半数弱(44%)
- 締結団体668のうち、行政機関が288(43%)、民間企業・団体等が380(57%)



**顔の見える関係をつくる
いざという時に名刺を交換しているようではダメ！**

4 地域防災力の向上 ～阪神・淡路大震災時の状況～



4 地域防災力の向上 ～防災力強化県民運動の推進～

- 消防団の充実強化
- 防災リーダーの養成
- 命を守る4つの実践（耐震化、室内安全、備蓄、避難）
- 自主防災組織の活性化
- 「減災活動の日」毎月17日



消防団 消防操法大会の様子

兵庫県 南海トラフ地震津波一斉避難訓練（2016年～）

・実施日

2019年11月5日（火）
（世界津波の日(11/5)関連事業）

・実施場所

兵庫県内の津波浸水域
（沿岸15市町）

・テーマソングの制作・普及

「走れタカダイ～津波避難の歌～」

作詞：兵庫県災害対策課

歌：あまゆうず

「Yahoo! 防災速報」スマホアプリと連携決定!
**南海トラフ地震
津波一斉避難訓練**
2018年
11月5日(月)
10:00 開始
めざせタカダイ
ともにタカダイへ。
マナーモードにしても
携帯電話が一斉に鳴ります
「ひょうご防災ネット」
津波浸水想定区域を知る「CGハザードマップ」

災害対応で大切なこと

備えの強化

- ・ 失敗や教訓から学び、活かす姿勢
- ・ ハード・ソフト両面の強化
- ・ 対応のシナリオ化（タイムライン）と訓練

迅速・的確な初動対応

- ・ スピード（迅速な初動対応）
- ・ 情報（事態把握、調整）
- ・ 連携（総合力の発揮）

< 阪神・淡路大震災の教訓 >



阪神・淡路大震災。あの日、あの時から来年で25年



阪神・淡路大震災25年

ご清聴、ありがとうございました。

兵庫県が実施する各種取組の紹介：ひょうご防災ネットアプリ

〈 2019年5月から運用開始 〉

緊急情報や気象警戒情報に
新機能を追加！！

～ 新機能 ～

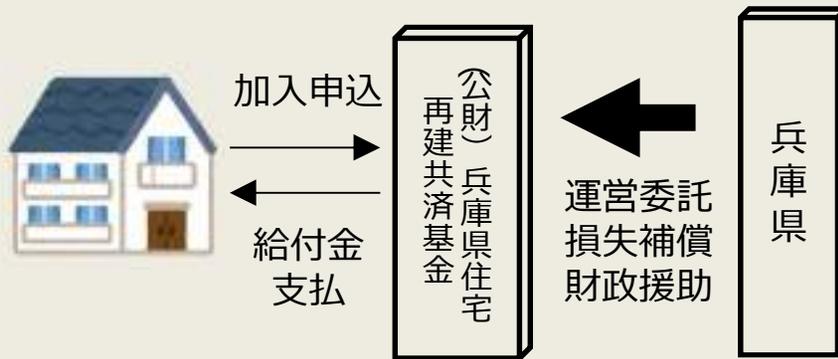
- ・ マイ避難カード
(自らの逃げ時や避難場所を
記載するカード)
- ・ 最寄りの避難場所表示(GPS)
- ・ 12の外国語・音声対応
- ・ 緊急・避難情報のプッシュ通知
- ・ SNSを活用した情報拡散
- ・ 他のアプリやHPとの連携



兵庫県住宅再建共済制度の創設・運用（2005年～）

- ・ **災害復興で最も大変なのは住宅の復興**
- ・ 阪神・淡路大震災の経験と教訓を踏まえた「共助」の仕組み
- ・ 兵庫県条例に基づいて運営
- ・ あらゆる自然災害に対応（地震・津波・風水害）
- ・ **小さな負担で大きな支援**
年額5,000円で最大600万円を給付

【共済制度の仕組み】



【加入状況（2018.12月末）】

加入率	9.7%
当面の目標	15%



自主防災組織向け防災訓練の手引き (2014年作成・2019年改訂)

構成・内容等

■サイズ等： A4版、カラー、74頁

■内容[目次]

I 訓練を始める前に、これだけは知っておこう！

自主防災活動の基本的事項について解説

班編成、危険箇所の把握、資機材整備・使用方法、
要援護者支援、災害時の活動等 など

II さあ、訓練をやってみよう！

各種訓練の手順(ねらい・必要なもの・進め方等)を解説
情報収集・伝達、避難、給食・給水、バケツリレー・消
化器などによる消火、心肺蘇生法・AED・ケガの対処、
搬送方法などの救急、防災マップの作成 など

III こんな活動を参考にしよう！

避難所運営、夜間避難、マンション防災、高齢者避難な
ど、実際に地域で取り組んでいる県内外の訓練を紹介

IV よりよい訓練にするために

災害情報の入手(ひょうご防災ネットアプリ、CGハザード
マップ、緊急速報メールなど)、ボランティア保険、ひよ
うご防災リーダー講座の案内 など



ネットで検索：<https://web.pref.hyogo.lg.jp/kk43/jisyubo.html>

24



～ 1.17は忘れない、伝える、活かす、備える ～

Hyogo Prefectural Government